

TOPICS

国内拠点の社会貢献への取り組み

● 地域とともに発展をめざす

akebonoは地域社会の一員として、まず、社員一人ひとりが小さな一歩からはじめることを基本に社会貢献活動に取り組んでいます。その一環として毎年2回行っている献血活動では、近年の特筆すべき実績向上を評価していただき、2009年7月、彩の国さいたま第40回「愛の献血助け合いの集い」において埼玉県赤十字血液センターより感謝状をいただきました。また、当社が行っている交通安全育成支援を目的とした寄付活動が評価され、2009年11月に羽生市産業文化ホールで行われた羽生市 市制施行55周年記念式典において表彰



献血活動の感謝状

を受けました。今後もakebonoは「良き企業市民」をめざし、事業活動を行うあらゆる地域において、豊かな社会づくりのための社会貢献活動を行っていきます。

地域へのボランティア活動

福島製造(株)ではボランティア活動の一環として、曙太鼓の出張演奏を行っています。2009年8月には、福島製造(株)にほど近い老人養護施設「トータルケアセンター 和らぎ」の納涼祭に参加し、曙太鼓部に所属する保専生\*18名が威勢のいい太鼓を披露しました。演奏後は盆踊りに参加するなど地域の皆さんとのコミュニケーションを深めることができました。また、10月に開催された「第6回「桑折宿」奥州・羽州街道まつり」では曙太鼓部が「ふるさと郷土芸能発表」に参加し、青空と山車をバックに力強い太鼓を披露。舞台上での挨拶では部長の佐藤亜紀さんから「これからも地域の皆様に貢献できる活動を行っていきます」と心強い言葉がありました。



「トータルケアセンター 和らぎ」での曙太鼓の演奏

清掃ボランティア

地域の美化活動に貢献するため、福島製造(株)では2009年5月に清掃ボランティア活動を行いました。当日は社員の家族を含む57名が参加し、五月晴れのもとゴミ拾いに集中しました。同じく5月、岩槻製造(株)では9回目となる「ゴミゼロ運動」に社員と家族合わせて160名が参加し、工場周辺のゴミを1時間で300kgも回収しました。Ai-Cityでは5月と11月の2回「Ai-City地域清掃ボランティア活動」を実施し、近隣の清掃とACWのサツキの植え替えを行うとともに、羽生駅に寄贈したプランターのメンテナンスも行いました。今年度はこれまでの実績が評価され埼玉県民の日に「シラコバト賞」を受賞しました。



シラコバト賞を受賞したAi-Cityの清掃ボランティア

● 学校見学受け入れ

岩槻製造(株)では地元小中学校の社会科見学に協力し、また、近隣の高校からインターン生を受け入れて、研修や製造所内での職場実習を行っています。山形製造(株)では小学5・6年生が課外授業として見学に訪れました。福島製造(株)でも小中学生の見学とともに、高校生のインターンシップを実施し、「akebonoは安全に対する意識がとて高かった」と感想をいただきました。また、10月には小学生がAi-Cityを、地元高校生が山陽製造(株)を見学しました。akebonoはこれからも次世代育成支援活動の一環として、小中学校からの見学や、中高生対象の職場体験、インターン生を積極的に受け入れます。

2009年度 受け入れ実績

1. 会社見学会/akebono 参観日	1,180名 /27回(全拠点)
2. インターンシップ/職業体験	14名 /7回
3. 住民懇談会	143名 /6回(全拠点)
4. 地域清掃ボランティア	377名 /8回(全拠点)
5. 地域緑化推進活動	20名 /2回
6. 献血	478名 /11回
7. その他	1,600名 /17回

各生産拠点での受け入れ



Ai-City  
さいたま市立  
辻南小学校会社見学会  
(10月15日)



山形製造(株)  
寒河江市立幸生小学校工場見学  
(9月25日)



山陽製造(株)  
岡山県立倉敷工業高校工場見学  
(10月23日)

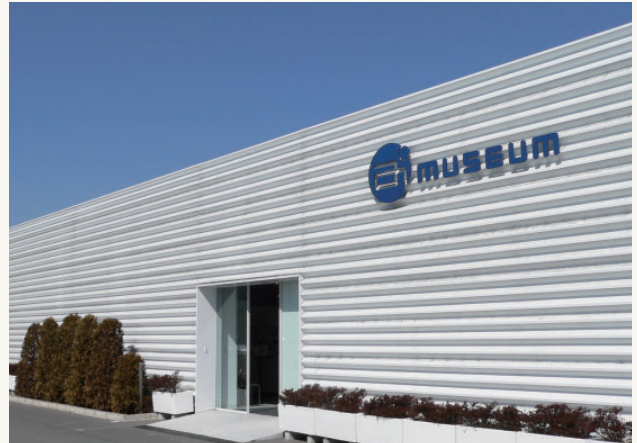


岩槻製造(株)  
さいたま市立慈恩寺小学校工場見学  
(11月13日、19日)

\*保専生：就職進学制度を利用してakebonoで働きながら学校へ通う社員(p.31をご参照ください)。

### ●ブレーキ博物館「ai-museum」

創業75周年を記念して2004年10月にオープンしたブレーキ博物館「ai-museum」は、公開以来、地域、お取引先様、学生など多くの方々に見学いただいています。ブレーキは「人のいのちを守る」大切な役割を担っていますが、訪れる方々にさらにその重要性をご理解いただくことをコンセプトにした展示内容となっています。館内は、実際の自動車を使いブレーキの動きや機能を説明する模型や、新幹線用ブレーキの実物など、220点以上におよぶさまざまなブレーキサンプルの他、ブレーキの開発の歴史が分かるコーナーも設置しており、ブレーキ技術開発の発展の足跡を肌で感じていただける内容となっています。



#### ブレーキ博物館「ai-museum」

開館日：毎週水曜日 14:00-16:00 入館料：無料

お問い合わせ先：曙ブレーキ工業(株)総務部

Tel. (048) 560-1500 Fax. (048) 560-2880

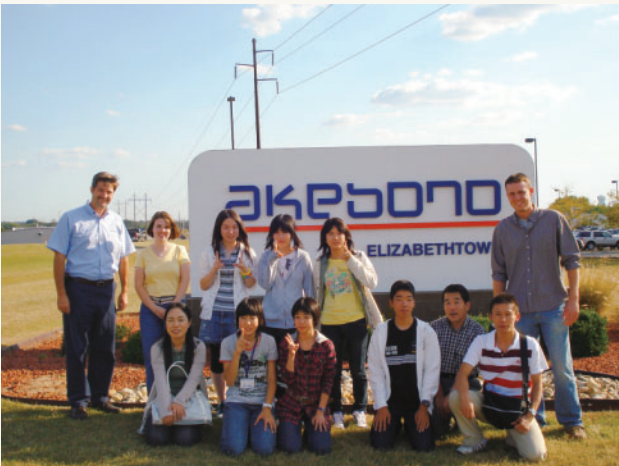
団体の方は事前にご予約ください。

## ● TOPICS

### 海外拠点の社会貢献への取り組み

#### ●米国：エリザベスタウン市との姉妹都市提携

1986年にakebonoがケンタッキー州エリザベスタウン市に合弁会社(現Akebono Brake, Elizabethtown Plant)を設立したことをきっかけとして、akebonoは日本国内の生産拠点の一つである福島製造(株)が所在する福島県桑折町との1992年の姉妹都市提携をサポートしました。提携以来18年間、中学生を中心に構成された国際交流派遣団の受け入れが両地域で続いています。派遣団参加者の方が後にアメリカに留学されたり、桑折町にエリザベスタウン市出身の英語教師が派遣されたりと、派遣団訪問をきっかけとした交流が深められています。Akebono Brake, Elizabethtown Plantも桑折町からの国際交流派遣団の受け入れ支援や工場見学の対応を行っています。



桑折町からの国際交流派遣団参加者受け入れ(Akebono Brake, Elizabethtown Plant)

#### ●フランス：Akebono Europe (Arras)

Akebono Europe (Arras)では、地元中学校、高等学校、専門学校のインターン生受け入れに積極的に取り組んでいます。これはフランス国内の教育課程への協力だけでなく、次世代を担う人財である地元の若者に向けた職業選択の支援と、地域の方々のakebonoの事業活動へのご理解を深めていただく機会と捉えています。

2009年にはインターンシップ生を12名受け入れ、技能職、専門職、幹部の3つのクラス設定で、就業体験を行いました。受け入れの延べ日数は415日間となりました。2010年は13名で延べ352日間の受け入れ計画です。

Akebono Europe (Arras)では、地元の専門学校と提携し施設見学の対応も行っています。2009年は30名の見学者を受け入れました。



Akebono Europe (Arras)でのインターンシップ

\*海外拠点の正式名称はp.67に掲載しています。

## 障がい者の方とともに良い会社づくりをめざします

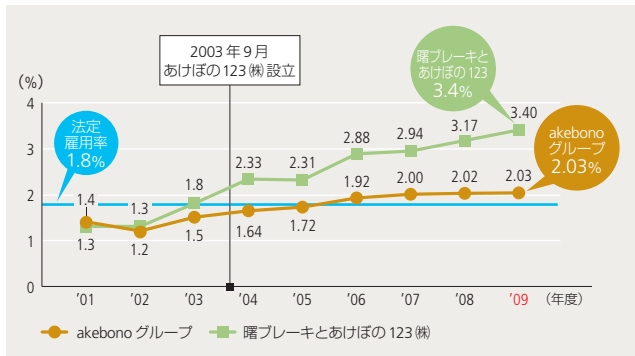
### akebonoの障がい者雇用

2004年4月に埼玉県内の製造業部門で初の特例子会社の認定を受けた「あけぼの123(株)」の社名には「小さなことから始める、1から始める」という意味と「会社と社会、健常者と障がい者の方の二人三脚で一番良い会社をめざす」という想いが込められています。主要業務であるAi-City内の清掃に加え、社員一人ひとりの個性に合わせた仕事を開拓し、能力を伸ばすことで、間接作業への職域拡大も図っています。ボウリング大会やバーベキューなど、社員同士の親睦を深める機会を提供するなど、あけぼの123(株)では「社員を人として育てる」を基本方針に、やりがいと働く意欲の維持も大切にして「埼玉県で一番良い会社をつくろう!」を目標に活動しています。



あけぼの123(株)社員と、埼玉北障がい者就業・支援センターの方が参加されたバーベキュー(5月23日)

### akebonoグループの障がい者雇用率推移



### あけぼの123(株)2009年度の活動報告

あけぼの123(株)は社員支援として指導員制度を導入し、4名体制で清掃作業・梱包作業等の作業現場を巡回、指導しています。指導の際は「社員を人として育てる」を基本方針に「個性を認め合う」ことを大切にし、わかりやすい手順の設計を行っています。図や写真を活用し要素作業を番号順に並べた作業手順書の作成や、作業の混乱を招かない工夫を実作業に取り入れるなど、作業品質を保つ配慮をしています。2009年度はコピー用紙供給作業で50冊から約20冊へ在庫削減を達成。補給部品の梱包作業では2009年6月から2台への稼働増で、収支に貢献しました。ACWの経理伝票並べ替えファイリング作業も開始し、さらなる職域拡大をめざします。2009年9月「埼玉県障がい者ワークフェア2009」では、あけぼの123(株)の社員および会社が、優秀勤労障がい者、障がい者雇用優良事業所として、社団法人埼玉県雇用開発協会から表彰されました。



コピー用紙の供給作業に従事するあけぼの123(株)の社員



埼玉県障がい者ワークフェア2009で表彰(2009年9月17日)

## TOPICS

### 「曙ブレーキ工業労働組合の社会貢献活動」

曙ブレーキ工業労働組合では、誰もが参加できるボランティア活動として、アルミ缶の収集活動に取り組んでいます。1998年に初めて1台目の車椅子を寄贈して以降は収集1,000kgの取り組みを続け、2009年8月、7台目の車椅子を埼玉県さいたま市岩槻区の知的障がい者入所更生施設「どうかん」に寄贈することができました。また、国際貢献の取り組みとしては、使用済みインクカートリッジの回収活動を行い、ダルニー奨学金制度を通じて、カンボジアの子どもたちへの学資として支援しました。



「どうかん」車椅子寄贈の記念撮影

## すべてのお客様に向け、高い品質を提供します

### ブルーピング・グラウンド: OEM製品への「安全安心の提供」

akebonoで最大の事業である自動車メーカー向け製品(OEM製品)の製造(2009年度事業別売上高比率67.5%, P.17参照)における実車ブレーキ評価は、akebonoが安全・安心を提供するための、最も重要な品質保証試験の1つです。

自動車部品メーカーとして国内最大規模(敷地面積約76万m<sup>2</sup>、1周3,016m)のテストコースを有し、さまざまな評価試験を実施しています。時速200kmからの高速制動、低・中μ\*路、円形旋回路、坂道試験路、悪路、浸水路などで、ブレーキの過酷なテストを繰り返しています。ドライバーの安全確保のため、ルールの徹底と技能や安全意識の向上のための取り組みを継続しています。



ブルーピング・グラウンド(福島県いわき市)

160km/h以上での制動試験も実施

\*μ(ミュー):摩擦係数。雪道など滑りやすい道路は低μ路と呼ばれます。

### ブレーキ技術教育巡回車:技術・知識をわかりやすく伝える

交換用ブレーキパッドなどを取り扱う補修品営業部門では、お客様である全国のディーラー、整備工場に向けてブレーキ技術教育巡回車を派遣し、講習会を実施しています。整備士、サービスマン、営業マンの方々にブレーキの構造や特徴、メンテナンス時に注意すべきポイントを製品や映像を使ってご紹介しています。ブレーキに対する知識や技能を深めていただくとともに、会場でいただいたご意見は製品開発にフィードバックしています。2009年度は講習会を218回実施し、4,242名にご参加いただきました。



ブレーキ技術教育巡回車

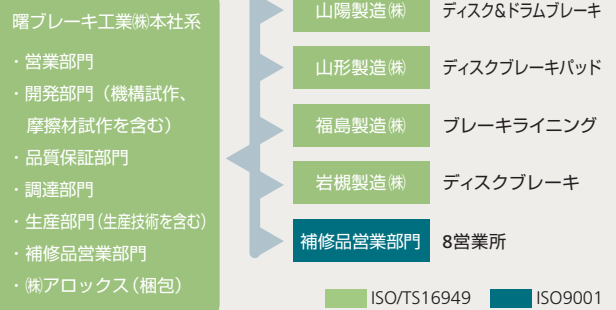
### 品質認証:「ISO/TS16949:2009」の取得

品質マネジメントシステムを自動車メーカーの視点で審査し、認証する仕組みの「ISO/TS16949」は、2009年6月に第3版(ISO/TS16949:2009)が発行されました。この認証は、海外の自動車メーカーの品質保証基準のクリアを意味するため、akebonoは引き続き、第3版の登録を2010年6月に実施します。

#### ISO/TS16949 取得状況

2010年5月現在

拠点: 認証取得範囲



2010年 館林(ISO9001取得予定)

2011年 館林(TS16949へ認証移行予定)、岩槻製造(株)(ドラムブレーキ認証取得範囲拡大予定)

アケボノテック(株)は開発部門へ組織統合のため、三春製造(株)は拠点再編のため、表内から削除しました。

### 品質管理優秀賞:トヨタ自動車(株)より「特別賞」を受賞

お客様と一体となって品質改善活動を継続した結果、トヨタ自動車(株)「2010年トヨタグローバル仕入先総会表彰式」では、5年連続品質管理優秀賞に輝いたことを受け、「特別賞」を受賞しました。贈られた感謝状と記念トロフィーは、全生産拠点で公開され、多くの社員が記念トロフィーを手に取り受賞の喜びを分かち合うと同時に、品質改善への決意を新たにしました。また、Elizabethtown Plantでは、ホンダ北米から「2008年品質優秀賞・納入優秀賞」を、日産自動車(株)から2年連続で「アフターセールス商品優秀企業表彰 ベストパフォーマンス優秀賞」なども受賞しました。



岩槻製造(株)での記念撮影



山形製造(株)



福島製造(株)

## 公平・公正な情報開示に努めます

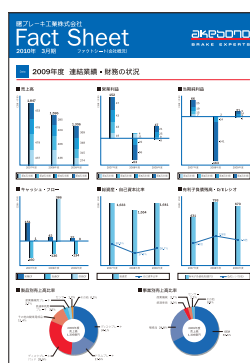
株主の皆様に向けて当社へのご理解を深めていただくために、株主総会時に「経営近況報告会」を毎年開催しています。証券アナリストや機関投資家向けコミュニケーション活動では、年2回「決算説明会」を開催しているほか、機関投資家との個別ミーティングも実施しています。2007年からは海外へのIR活動にも着手し、海外機関投資家とのミーティングも行っています。IRで使用したプレゼンテーション資料や、決算短信、ファクトシートなどの情報は、当社ホームページの「株主・投資家の皆様へ」に随時掲載しています。



決算説明会(2010年5月20日)

金融商品取引法、会社法、その他の法令や商品取引所の開示ルールに基づいた情報開示については、当社ホームページへの掲載、東京証券取引所TDnetなどの媒体を活用し、公平・公正な情報開示に努めています。

昨今の急激な経営環境の変化のもと、社内の進む方向性や取り組みなどを、株主・投資家の皆様にご理解いただくために、情報発信の充実や説明会の実施など引き続き地道なIR活動を行ってまいります。



ファクトシート(2009年度 通期)



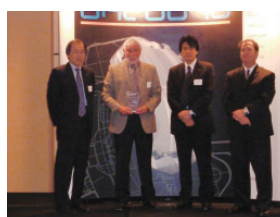
## パートナーシップの強化にむけた取り組みを進めます

akebonoは「同じ目線とともに学ぶ」という方針のもと、お取引先様とのパートナーシップの強化をめざした取り組みを行っています。主要なお取引先様で構成される誠和会を中心として、さまざまな研修や教育セミナーを実施しています。

「akebonoサプライヤーズミーティング パートナーシップ2010」は2010年3月、ホテルオークラにて主要なお取引先様91社、132名の方々のご参加により開催されました。当社社長 信元 久隆より「akebono 2010年度会社方針」についての説明の後、品質保証、開発、調達の各部門での取り組みを説明しました。表彰式では、品質優良賞1社、品質努力賞12社、VA優良賞6社を表彰し、今後ともパートナーシップの関係強化に努めていくことを再確認できた会合となりました。同様に、海外においてもお取引先様とのパートナーシップの強化を図っています。米国では123社、171名、タイでは23社、44名のお取引先様にお集まりいただき、akebonoの方針を共有させていただきました。



「akebonoサプライヤーズミーティング パートナーシップ2010」(東京)での表彰式

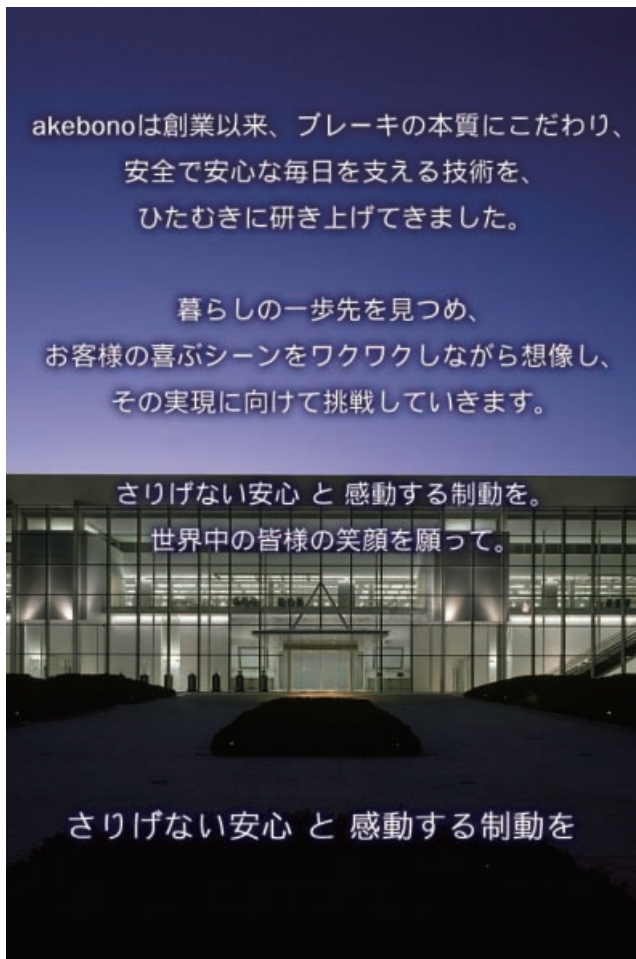


米国での開催



タイでの表彰

## コーポレートブランド(CB)推進活動



### ブランドステートメント

akebonoは「ブランドステートメント」を2005年に制定いたしました。

この「ブランドステートメント」は、akebonoブランドの魅力を飛躍的に向上させるため、「曙の理念」「akebono21世紀宣言」を踏まえ、社員が自分の会社を想い、皆が手づくりでつくり上げたもので、中期的な時間軸で「akebonoの目指す企業像」を社内外への約束としてわかりやすく示したものです。

「ブランドステートメント」は3つのフレーズで構成しています。第1フレーズでは、「歴史・こだわり・DNA」を表現しています。akebonoは、2009年で創立80周年を迎えました。その長い歴史のなかで「いのち」に関わる製品を造り、ファウンデーションブレーキというブレーキの本質部分にこだわり続け、安心を支える技術を研いできた自信と誇りを込めています。

第2フレーズでは、「目指す姿・挑戦していく姿勢」を表現しています。お客様が喜ぶ姿を想像しながら、さらなる飛躍のための新しい価値を創造していく姿勢を宣言するとともに、さまざまなシーンで社会に貢献する姿を表現しています。

第3フレーズでは、「目標・約束」を表しています。ステートメントに込めた想いをお客様のみならずakebonoに関わるすべての人々の幸せを支え続けていくという姿勢を宣言しています。

### ● TOPICS

#### akebono 参観日

akebonoは、「家族に誇れるブランドを」という考え方をCB推進活動で大切にしています。この考えを实践する取り組みの1つに社員の家族のための職場見学会「akebono参観日」があります。

2009年度のakebono参観日は福島製造(株)(7月28日)と岩槻製造(株)(8月26日)で開催しました。福島製造(株)では23家族54名、岩槻製造(株)では16家族47名の方々に、社員もしくは自分のご家族が働いている職場をご覧いただきました。「普段絶対に見ることのできない工場見学ができて良かった」「大勢の社員の方々が製造するブレーキの工程を見学して、日ごろ何気なく使用しているブレーキに対する気持ちが変わった」、また福島製造(株)保専生の親御さんからは「娘の働く姿を見て、グッときました。3年間よくがんばってきたと思います」などのご感想をいただきました。

akebono参観日を通してたくさんの社員が一体感を感じる貴重な機会となりました。他拠点への拡大も含め、今後も開催していく予定です。



工場見学(岩槻製造(株))



昼食体験(福島製造(株))

# 社員一人ひとりに会社の成功を分かち合える機会を提供します

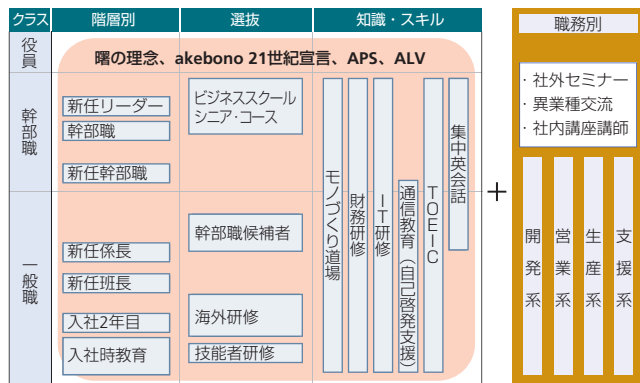
## 人事基本理念

「会社を成功に導く最も重要なファクターは『人財(社員)』である。」の考えのもと、「個の確立」と「相互の尊敬と信頼」を基盤に、グローバルでの長期人事政策の構築をめざしています。akebonoがグローバル競争のなかで成功し続けていくためには、全社員がプロの人財として自信と誇りを持ちながら「変革」「効率」「挑戦」にこだわり、それを通して成長し、能力を最大限に発揮できる環境を築くことが必要です。その土壌づくりのために、「社員一人ひとりに機会を提供し、会社の成功を共に分かち合える社員を支え続けていくこと」が人事の基本方針です。

## 人財開発・教育研修

「曙の理念」「akebono21世紀宣言」、APS、ALVを軸に人事基本理念に基づいた教育研修を実施しています。今後は、語学力向上や海外駐在員候補者研修など、研修と人事制度の連動強化により、社員のモチベーションアップを図りながら、グローバルに通用する人財の早期育成を推進します。

### 教育研修体系 (2009年度)



**【Akebono Leadership Value (ALV)】**  
akebonoグループの幹部職社員が職務の役割・責任を果たし、成果を導く行動特性を定義したものです。

## ダイバーシティ(人財の多様化)に対する取り組み

グローバルな事業展開にあたり多様な価値観、文化を持った人財が「一人ひとりの能力を最大限に発揮できる組織づくり」が必要と考え人財の多様化を進めています。

### ■ワークライフバランス

「仕事」と「仕事以外の活動」のバランスを取りながら、社員一人ひとりがその人らしい働き方、生き方を実現できる環境整備をめざしています。子育てや育児、介護、地域活動や、英語教育などの自己啓発を通して、「働き方を変える」機会を提供しています。

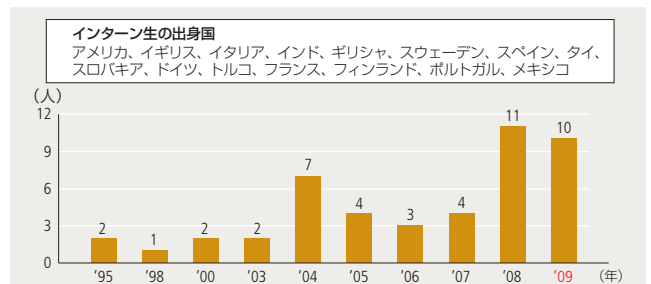


育児に関わるお父さんをサポートする「お父さん応援講座」

### ■インターンシップ

市場ニーズの多様化やグローバル展開に伴い、製品を造る側も多様な文化や価値観に対する理解を深めることが必要になっています。akebonoでは1995年から海外のインターン生を積極的に受け入れ、社員が職場で多様な価値観や考え方の感性を研くこと、インターン生が国境を越えて雇用の門戸を開くことを狙いとしています。

#### インターン生受け入れ人数の推移



### ■障がい者の雇用 (p.26をご参照ください)

## TOPICS

### 入社時研修

入社時研修の一環として三菱重工(株)横浜製作所とJR東日本大宮総合車両センターおよび研究開発センターを訪問しました。三菱重工(株)では、2,400kWの風力発電実証機とナセル(風車頭部)の組み立て工程を見学。JR東日本では主に首都圏の通勤用電車や特急電車、寝台特急の定期検査に対する心構えやメンテナンスの近代化についてお話を聞きました。実際にakebonoの製品が使用されている現場を見学することで、自社製品の品質が社会的にも大きな影響を持っていることを実感する機会になりました。



風力発電実証適用翼の前で記念撮影



大宮総合車両センター正門前で記念撮影

## 柔軟な働き方が選択できる人事制度の充実

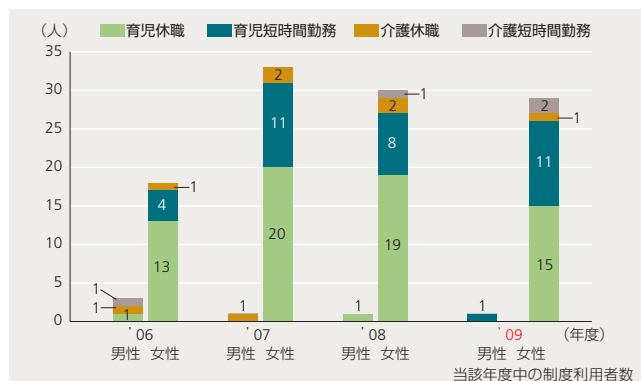
akebonoは、社員の誰もが活躍できる、多様で柔軟な働き方ができる人事制度を整備し、働き続けやすい環境づくりに取り組んでいます。

「キャリアパートナープラン」は子育てや介護、配偶者の海外転勤など、家庭責任を理由に退職された社員に、経験・知識・キャリアを活用して再びakebonoの社員として働く機会を提供する制度です。2008年4月に導入し現在4名の方が登録をしています。

「社員育児休業制度」では現在までに2名の男性社員がこの制度を利用して、育児休業を取得しました。

「就職進学(保専生)制度」は、akebonoで働きながら、女子短期大学の保育課第二部(夜間課程)に通い、3年間で幼稚園教諭二種免許状と保育士資格が取得できる制度です。学費を給与からまかなえるので、自分の力で学校を卒業し資格取得することができます。就職進学制度は1971年から開始して現在は福島製造(株)で運用しています。2010年で運用開始から40年目を迎え、制度利用者は延べ1,300名を超えました。

### akebonoグループの制度利用者



## 生涯設計を支援する「ライフプランセミナー」

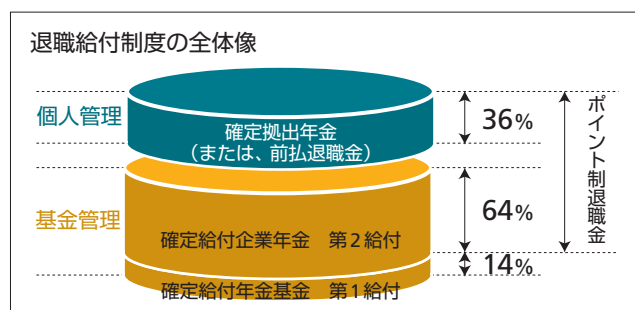
akebonoは、定年後も含めた生涯設計セミナー「ライフプランセミナー」を実施しています。「心身の健康プラン」「キャリアプラン」「経済プラン」を柱に、ライフプランの重要性に対する「気づき」の機会としています。

50歳では、キャリアの棚卸しや将来の生活環境について10年後の自分を考えるセミナー、55歳では、定年後を「より現実的に考える」ために、個々人の公的年金・企業年金情報を提供するセミナー、60歳の1泊2日のセミナーでは、ご夫婦参加で定年時の諸手続きを知る機会と、確定した個々人の公的年金や企業年金と選択肢、雇用保険などの理解を深めることが狙いです。

2010年度からは、ライフプランの重要性認識の早期化を図ることから、40歳を対象にした「ライフプラン40セミナー」を始める計画です。

## 退職給付制度

akebonoの退職給付制度は、定年退職日を満60歳の誕生日末日として、確定給付企業年金と確定拠出年金で構成しています。確定給付企業年金は、一時金として受け取るか、年金(20年保証)方式で受け取るかを選択できます。確定拠出年金は、退職金を在職中に前払い方式で受け取ることもできますし、指定された金融商品36種のなかで資産運用をすることもできます。この制度の導入と選択肢の多様化によって、社員の生涯設計の利便性向上を図ります。



### 退職給付制度の目的

- |   |   |
|---|---|
| <b>公的年金制度の補完</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 公的年金制度の給付は、原則65歳からです</li> <li>● 60歳以降の部分年金給付に企業年金で補完できます</li> </ul> | <b>会社加算による退職金の増額</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 確定給付企業年金では「会社加算額」を上乗せし、社員の生涯設計に企業が支援をしています</li> </ul> |
| <b>退職金の保全</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 退職給付制度の100%を企業年金として外部に積み立てし、退職金の支払いを確実にします</li> </ul>                  | <b>安心した生涯・安心して働く</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 在職中から生涯設計・準備ができる制度で、不安を解消し安心して働くことができます</li> </ul>    |

## 雇用に関する情報

2008年度のリーマンショックで経済、経営環境が悪化し、受注・生産数量が激減したため、やむなく契約社員の方々に契約期間満了による雇用の終了と正社員の希望退職者募集を実施しました。また、国内事業再編では異動できない方が退職を選択されました。

契約終了の雇止め、希望退職の実施ではコンプライアンスを遵守し、個別面談での合意による退職を前提に、退職慰労金や退職金の特別加算、希望者への再就職支援、特別休暇付与を実施しました。再編に伴う退職者の方々にも、希望者への再就職支援を実施しています。

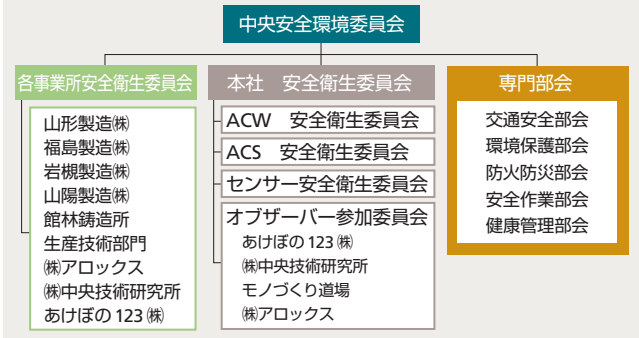
この結果、非正規社員数は2009年9月末日で前年同日比817名減の183名となりました。なお、2010年3月末日では生産量に合わせ486名を雇用しています。また、正社員の希望退職者募集に対する応募者数は2009年10月末日で全社211名。再編に伴う退職者は2010年3月末日で86名となりました。

# 労働安全衛生

## 社員の安全と健康の確保

akebonoグループの安全衛生健康活動は、「曙の理念」と「akebono21世紀宣言」を基に策定され環境基本理念と環境基本方針を踏まえ、中央安全環境委員会を頂点とするakebono安全衛生マネジメント体制により、社員の「安全と健康」を確保し、事業活動にかかわるさまざまなリスクや災害、事故などの緊急事態の発生防止を徹底しています。

### akebono 労働衛生マネジメント体制



## TOPICS

### 各拠点の安全への取り組み

#### ● 無災害 1,500 日を達成

Ai-Cityの食堂「パル」では、以前社員が調理用具で切創したことをきっかけに、社員20名全員が用具の扱いに注意し、小さな改善を積み重ねてきました。その成果が実り2008年12月には無災害1,500日を達成。次の目標2,000日、3,000日に向けて、さらに注意を徹底しています。



無災害1,500日達成した Ai-Cityの食堂「パル」の皆さん

#### ● 企業安全運転講習を実施

安全を社会に提供する企業として、社員の交通事故防止をめざす「企業安全運転講習」を実施しています。羽生モータースクールのご協力のもと、1回3時間で「基本に基づいた安全・円滑なコース走行と安全な車間距離の実車走行」から「飲酒ゴーグルを装着し



大型バスを使って死角の体験

ての実車運転」などの安全意識を高める内容の講習となりました。事故を起こさない運転の徹底に貢献しています。

#### ● Ai-City 防災避難訓練を実施

2009年9月、Ai-Cityに勤務する社員総勢881名が参加し、防災避難訓練を実施しました。当日は「岩槻付近を中心に震度6強の地震が発生」という事態を想定し、各自が決められた通路を確認しながら避難場所に移りました。ACWに設置した緊急災害対策本部と岩槻製造(株)を衛星電話でつなぐシミュレーションも行い、本番さながらの実践的な訓練になりました。



Ai-Cityでの防災避難訓練

#### ● アスベスト問題への取り組み

akebonoは1970年代に、日本の企業のなかでもいち早くノンアスベスト製品の研究開発に取り組みました。1992年には乗用車OEM(新車組付)用製品、1994年には商用車OEM製品のノンアスベスト製品への切り替えを完了し、補修部品についても2000年以降はアスベスト製品の生産を全面的に中止しています。2005年7月には、社内に「石綿特別委員会」を設置。同年8月から各グループ企業に「健康相談室」を設置し、周辺住民の皆様、退職者とそのご家族を対象に健康診断(費用当社負担)を実施し、今後も継続する計画です。2010年3月末現在で健康診断の累計受診者は569名となりました。

#### 健康診断受診者数内訳(2005年8月～2010年3月末現在)

( )内は昨年度からの増加数

	退職者	退職者ご家族	周辺住民	合計
石綿肺所見あり	40名 (+2名)	0名	0名	40名 (+2名)
塵肺所見あり	15名	0名	0名	15名
所見なし	369名 (+18名)	35名 (+1名)	110名 (+1名)	514名 (+20名)
<b>受診者合計</b>	<b>424名 (+20名)</b>	<b>35名 (+1名)</b>	<b>110名 (+1名)</b>	<b>569名 (+22名)</b>

● TOPICS

国内拠点での労働安全衛生への取り組み

●「モノづくり道場」2009年度活動報告

「モノづくり道場」はakebonoのモノづくりの基本的な考え方を、体験を通して学び、生産現場を強くできる人財育成の場として整備しています。APS道場、安全道場、環境道場、保全道場、摩擦材道場の5つの道場とAPS歴史館で構成し、モノづくりの原理・原則、要素作業・技能、要素技術を、誰もが短時間で体験することができます。2009年度は188名が研修に参加し、2006年2月のスタートから数えると通算1,067名が研修を体験しました。また、お取引先様、お客様、他企業の方々との体験、見学も広く受け入れています。誠和会からは2008年度の11名に対して、大幅増となる36名の方が参加。お客様は21名、他企業からは200名の方々が「akebonoのモノづくりの考え方」を体験されました。2010年度は、間接支援系の社員を対象に「APS」の体験講座を計画しています。

モノづくり道場を見学

埼玉県産業技術総合センター、財団法人埼玉県中小企業振興公社(32名)がAi-Cityを訪問され、モノづくり道場を見学されました。特に安全道場での指差し呼称に興味を持たれ、基本的な研修をきっちりと行っていることに感心された様子でした。中小企業の人財育成の参考にしたいという意見もあり、モノづくり道場についてご理解いただく機会になりました。



モノづくりセミナーを体験する埼玉県中小企業振興公社の方々

資格取得は自分への挑戦です

山陽製造(株)の田辺秀作は、2009年春に「1級機械検査技能士」を、また、夏には「2級金属熱処理技能士」を取得しました。2級金属熱処理技能士では岡山地区で銀賞も受賞。今後もチャレンジ精神を持って、努力を続け、スキルアップのためにもさらに上級の「特級技能士 金賞」をめざします。

「これからも資格を業務に活かしながら、知識と腕を磨き、成長したいと思っています」

山陽製造(株) 管理部  
品質管理2課  
田辺 秀作



●埼玉県経営者協会の方がAi-Cityを訪問

埼玉県経営者協会北部地区協議会の会員40名が来社され、Ai-Cityを見学されました。モノづくり道場では、道場の設置の目的や研修の狙い、「標準作業」の基本である手元化、両手作業、歩行短縮、治具改善などの考え方について耳を傾け、akebonoの人づくりとモノづくりのこだわりについての「技能の伝承」をテーマとした講演では、参加者の活発な意見交換が行われました。



説明に熱心に耳を傾ける埼玉県経営者協会の方々

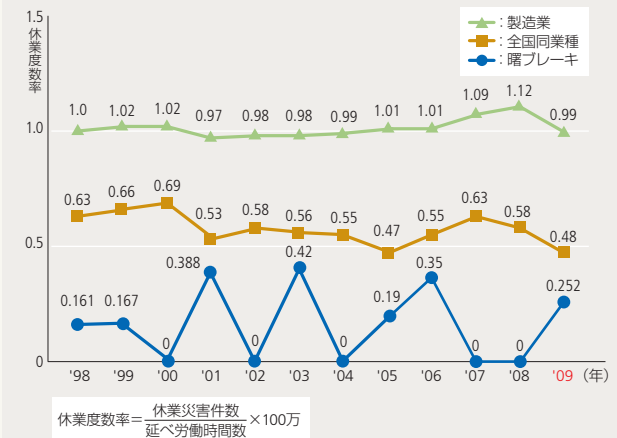
●安全心得講習会を実施

生産部門が各拠点を巡回して行っている安全心得講習会を2010年1月と2月の2回、福島製造(株)で開催しました。講習では「安全心得」のパンフレットを配布し、作業服装・作業規律・危険予知・安全運転などについて全社員が学びました。今後も各地で安全心得講習会を開催し、一人ひとりの安全意識の向上をめざします。



安全心得講習会

akebono労働災害発生率(休業度数率)



TOPICS

海外拠点での労働安全衛生への取り組み

●米国: Akebono Brake. Glasgow Plant (ABG)での取り組み

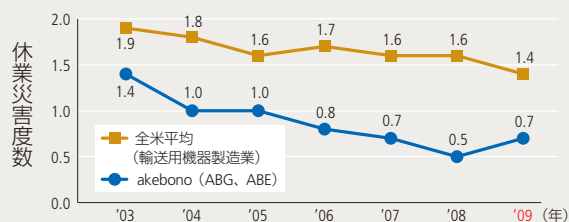
ABGでは、災害発生時の原因究明と詳細な調査分析により、再発防止の処置を徹底すると同時に、年間教育プログラムのなかで労働災害につながる可能性のある箇所を見つけ出し、リスクを低減するための改修プログラムを組んでいます。また、設備メンテナンス時の災害防止に着目し、異常発生時には「Stop - Call -



朝礼時の安全唱和活動

Wait / まず設備を止めて - 同僚を呼び - その到着を待つ」という作業手順を徹底しています。2009年は設備メンテナンススタッフによる朝礼時の安全唱和活動を実施しました。このようにABGではスタッフの安全意識を維持し、災害発生時のリスクを低減するさまざまな施策に継続的に取り組んでいます。

akebono米国内工場の休業災害度数



上図は米国労働安全衛生局の休業災害度数の算出方法に基づき提出されたデータです。

●中国: 広州での取り組み

労働安全衛生

広州では安全で衛生的な労働環境づくりに取り組んでいます。安全面では、安全道場と体感コーナーを設置し、これを訓練に活用するほか、安全門を導入しました。また、温水洗浄便座(便座ヒーター付タイプ)のトイレ導入は、衛生と快適性を向上するとともに、紙の使用量削減にも貢献しています。工場では自然光を取り入れ、換気を良くしたほか、休憩コーナー、駐車場の整備など、より働きやすい職場環境をめざして改善を進めています。

自己啓発

広州では現地スタッフの方とのコミュニケーションを円滑にするため、希望者を対象に日本語の会話教室を開催。毎週木曜日の退勤後、語学学校の先生を招いて2時間程度のレッスンを行っています。



日本語会話教室の授業風景

親睦会

2ヶ月に一度、誕生月の方と幹部社員との食事をを行い、そこでの意見や提言を会社運営に反映しています。また、全社職場旅行やスポーツ大会などを開催し、コミュニケーションを深め、モチベーションの向上に役立てています。



広東陽江への職場旅行で集合写真



ゲームで社員間の親睦を図りました

安全訓練

2009年12月と2010年2月の2回にわたって、避難訓練を行いました。模擬とはいえ、火災を想定した演習は緊張感あふれるものになりました。また、AEDの取り扱いなどを含む救急対応訓練を実施するなど、社員の安全意識を高める訓練を定期的に行っています。



避難訓練

	改善前	改善後
休憩コーナー		
明り取り窓の設置	構内	
通風環境	倉庫内	
駐車場整備	通風口の設置	
		環境に優しいブロックを使用

\*海外拠点の正式名称はp.67に掲載しています。

## カウンセリング・研修を通して健康をサポートしています

### 健康管理体制の整備・推進を展開中

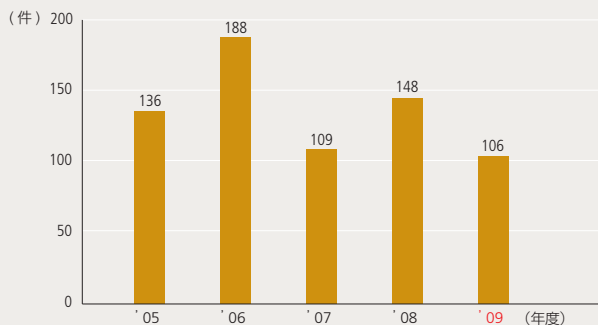
年々増加する仕事や生活に対する悩み、不安を持つ社員へのメンタルヘルス対策と健康維持や健康志向を推進する体制整備のため、健康管理室と健保組合が協同でグループ全体で健康管理を進めています。2009年度の臨床心理士による全社メンタルヘルス相談件数は、84件となりました。



産業医との面談

メンタルヘルス対策では臨床心理士と契約し、カウンセリングや研修会を実施。これまで本社幹部職研修を115名、一般職研修を418名が受講したほか、各グループ企業においても個別カウンセリングや幹部職研修を実施しています。また、社内外に「相談窓口・ホットライン」を設置するとともに、メンタルヘルス職場診断を実施し、部門・部署ごとに本人の気づきと職場の問題点を抽出する取り組みを進めています。本社では2010年3月に実施し、各部門ごとに職場の問題点を検討しました。そのほか健康管理においては、産業医と契約し、健康相談、職場復帰面談を実施するほか、全社員100%健康診断の受診を達成しました。また、40歳以上の社員に対する特定保健指導も行っています。2009年度は「積極的指導」が232名、「動機づけ支援」では93名の指導実績となりました。

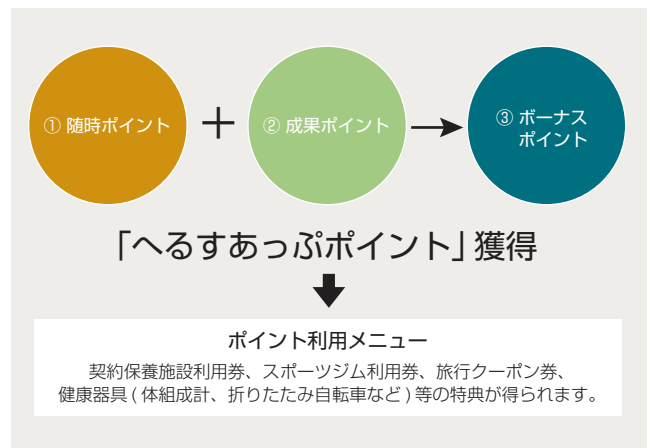
#### Ai-City(本社)の医務室面談数



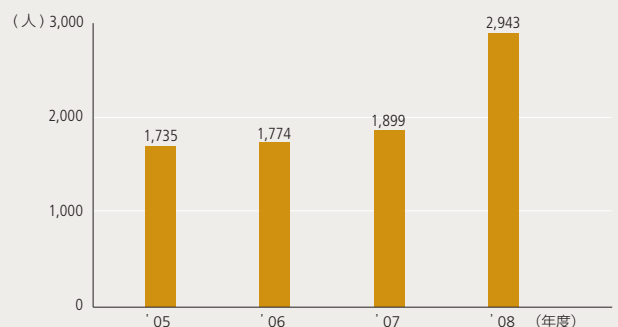
### 健康支援プログラム「健康あけぼの21」

#### (目標設定型健康づくり運動)

健康支援プログラム「健康あけぼの21」では、引き続き社員と家族の健康をサポートし、楽しみながらできる健康づくりを推進しています。この運動の特徴は健康づくりへの意欲・努力・成果に対して付与する「へるすあっぷポイント」にあります。年間合計ポイントで健康グッズや契約保養施設利用、スポーツ施設利用などの特典が得られる仕組みを活用し、今後もさらなる参加者の拡大をめざしています。



#### 「健康あけぼの21」参加者数



### 血液サラサラ健診

生活習慣病の予防も含めた社員の健康管理の一環として、「血液サラサラ健診」を実施しています。2009年度も多数の応募があり、543名の方が受診しました。血液の流れをモニターでリアルタイムに確認できるうえ、受診後には社員の意識改革・向上を目標に日常生活習慣に関する保健指導も行われるため、健康づくりの支援に役立つとともに、行動変容にもつながっています。